

【連携1-3-2】

部会4と部会2の連携について(報告)

2021.6.17

**BLCJ**

# 部会4と部会2との協力関係強化の背景

第5回建築BIM推進会議において「属性情報検討の関係部会・団体との協力関係の強化」の観点から以下の内容を説明している。特に部会4とコードの考え方に関して連携を図ることは、プロジェクトの各ステージ(段階)をつなぐ軸となるもので重要なものと考えている。(次ページ参照)

今回は、連携の第一歩として分類体系の考え方を中心に打合せを行った。出席者は以下のとおり。

部会2 山本部長(東京都立大学)、吉田副部長(日建設計)、寺本(BLCJ専務理事)

山口(仕様書情報WG主査)、渋谷(同WG研究員)

部会4 森谷座長(N T T ファシリティーズ総合研究所)、村瀬副座長(日本設計)、

加納(BSIJ副会長兼専務理事)

[第5回建築BIM推進会議部会2資料抜粋]

## 方針変更(その2) 属性情報検討の関係部会・団体との協力関係の強化

部会3との連携………属性情報の中で、建築確認に必要な属性情報がすべて含まれているか、また定義が同じかを検討するため、以下の連携を行う。

- ・(一社)建築性能基準推進協議会が運営する大臣認定検索システムとの連携の可能性を検討(R元年度)
- ・確認審査の「図面に明示すべき事項」をBIMの属性情報に展開し、必要な情報がすべて含まれるか、定義は同じか等協議(R2年度～)
- ・確認審査で必要なBIMオブジェクトに具備すべき情報の提供(上記以外の性能・仕様等、オブジェクトの振り舞い等)に関する調整(R3年度～)
- ・建築確認申請データの真正性、見読性(保存性・永続性)等に関して、確保のための属性情報に関する意見交換。(R2～)

部会4との連携………属性情報の中で、プロジェクトのステージ(段階)をつなぐ軸となる、製品等の分類コードに関して以下の連携を行う。

- ・分類体系の考え方に関する意見交換(R2年度～)
- ・分類コードとコストの紐づけの考え方に関する情報交換(R3年度～)

部会5との連携………属性情報の中で、主に施工段階で必要とされる属性情報の共通化に関して以下の連携を行う。

- ・建築、設備の部品・付属品レベルまでの用語と定義に関して必要な情報交換を行い共通化を図る。(R3年度～)

設計三会との連携………設計業務に関わるEIR・BEPに示される属性情報・形状情報やその適用段階に関しての共通化を図るため、以下の連携を行う。

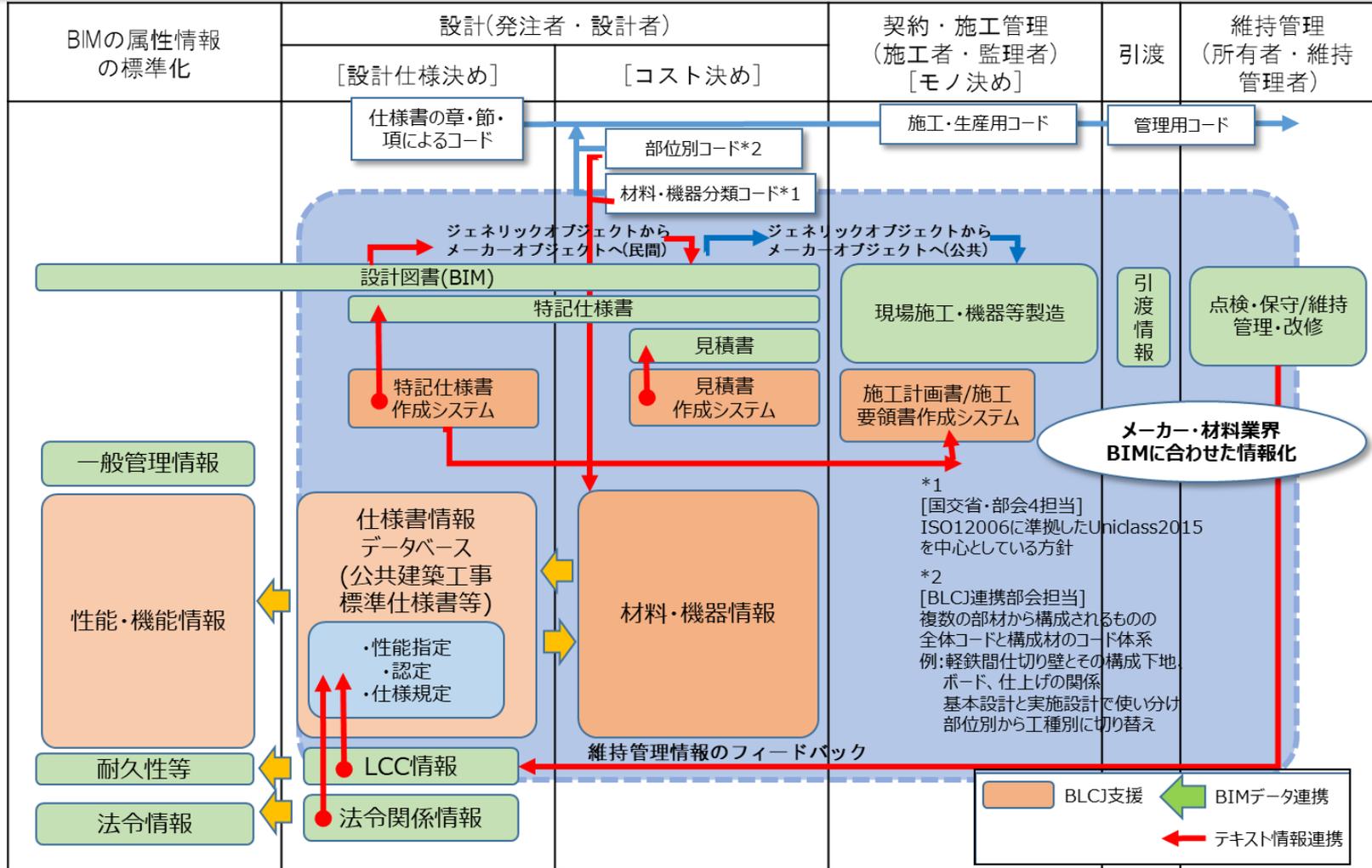
- ・標準ワークフローの各ステージの内容、EIR・BEPのひな型、主要オブジェクトの形状詳細度・属性情報等に関する調整(R2年度～)

その他………構造パラメータの共通化を図るため、構造属性情報に関して(bSJ、RUG、JSCA、BIM Summit)と共同して検討実施(R2年度～)

# (参考)分類コード・標準仕様書等を用いたプロジェクトの各段階連携イメージ

BIMの属性情報の標準化と標準仕様書との連携のメリットは、次のことが考えられます。

- ・BIMの属性情報の標準は、そこに含まれる情報と様々な業務との連携が飛躍的に拡大されます。(例：標準仕様書、建築確認等)
  - ・標準仕様書との連携は、特記仕様書、見積・積算、調達、施工について、分類コード等を軸としたデジタル化を促進する可能性があります。
- 2020年度、2021年度には、この領域を集中的に調査検討を進めます。参考として以下に現在検討中の情報の流れを示します。



# 部会2(連携部会)と部会4の連携について

- 部会2(連携部会)と部会4の打合せの実施(2021年3月1日)
- 両部会の活動に関して、以下に示す内容に関して共通の課題として意見交換し、今後の方向を協議した。今後、これらについて定期的な打合せを行うことで合意した。

共通の課題として意見交換した内容	今後の方向
① 国内の資機材の分類には一致しない点もあるが、ISO12006-2に基づく国際コードとしてUniclass2015は、中心的(骨格的)存在と言える。(部会4)	→この点は同じ認識。BLCJ標準にはUniclass2015, OmniClass, CI-NETコードを記載できるが、単に並列に置くのではなく、Uniclass2015を上位分類として関係づけることもひとつの方法と考えられる。(部会2)
② BLCJは、オブジェクトのプロパティ(パラメータ)に具体的なコードの割り当てを2021年度末までに行い、標準ver2.0を確立する予定で、日本特有とも言える資機材のコードが課題。(部会4)	→実際に資機材コードの追加が必要な場合は、NBSの四半期ごとの委員会提出し協議することが考えられるのでその場合は協力をお願いしたい。(部会2)
③建築と設備で当面別のコード体系を活用しないと対応できない。(建築:Uniclass2015,設備CI-NET)(部会2)	→これは仕方がないのでは。①に示すようにCI-NETコードとUniclass2015を活用することで解決できると考える。(部会4)
④これまでのコード化への取組みを踏まえると、共通のコードだけを流通させることは困難なことに認識している。「緩いコード」として考えたい。(部会4)	→詳細な内容まで共通コードで縛るのではなく、コードとID(共通ID、企業内ID)を対応表等を用いて連携するのが現実的ではないか。(部会2)
⑤概略積算の次の課題として、課題が山積していると認識している、調達の積算に関して取組みは如何か。BLCJとしてはコード等をどのように用いるかの検討を行う計画だが。(部会2)	→「もの」を具体的に定義する段階では情報、コード等を詳細にする必要がある。④に示す様々なコード等を広い視点から比較・活用することも考えられる。(部会4)